

能登半島地震 1 年を覚えて

祈りのしおり

2024年1月1日 16時10分 発災

中部教区「能登半島地震 1 年を覚えて」

Zoom によるオンライン祈祷会

日時 2025年 1月1日 (水) 16:00より

日本基督教団 中部教区

日本基督教団 各教区 諸教会・伝道所の皆さま

主の御名を賛美します。

いつも能登半島地震被災教会と関連施設をお覚え下さり、感謝申し上げます。

中部教区では「能登半島地震1年を覚えて」地震発生1月1日16時10分に黙祷し、祈りを合わせるために冊子「祈りのしおり」を作成しました。

これをもとに中部教区主催で、1月1日（水）16:10 発災に合わせて40分ほど、Zoomによるオンライン祈禱会を行うことを決議しました。このオンライン祈禱会は中部教区諸教会・伝道所に呼びかけます。

そこで、全国の各教区、諸教会・伝道所の皆さまにも、この時に祈りを合わせていただければと思います、この「祈りのしおり」を配布、配信させていただきます。Zoomミーティングの参加者数制限もありますので、今回はライブでは中部教区内にいたしますが、ご一緒に祈りに覚えて下されば幸いです。

まだまだ再建には時がかかりますが、今後とも、お祈りにお覚え下さり、ご支援をいただきたくお願い申し上げます。

2024年12月9日

中部教区総会議長 加藤幹夫

12/17更新：祈禱会はYouTubeで配信することになりました。

配信URL： <https://youtube.com/live/yQE6U6vsR3U>

序詞

昨年のきょう、1月1日16時10分に能登半島地震が発生しました。多くの家屋が倒壊、半壊し、津波も発生、輪島においては大火災になりました。多くの人命が失われ、家や財産や仕事場が被害を受けました。輪島教会、七尾教会、羽咋教会、魚津教会、そして教会関連施設が被害を受け、その復興はまだ先が見えない状況です。仮設住宅や今も避難生活をしておられる方々がおられます。震災から1年を覚え、この日、私たちは心を一つにして、被災地の人々と教会に主の慰めと支えを祈り求めると共に、その歩みを支え共に担っている全国の諸教会の働きに主の導きと力づけを祈りましょう。

16：10 発災 1分間の黙祷

聖書 詩編 121編 1節～8節

1 都に上る歌。

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。

わたしの助けはどこから来るのか。

2 わたしの助けは来る

天地を造られた主のもとから。

3 どうか、主があなたを助けて

足がよろめかないようにし

まどろむことなく見守ってくださるように。

4 見よ、イスラエルを見守る方は

まどろむことなく、眠ることもない。

5 主はあなたを見守る方

あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。

6 昼、太陽はあなたを撃つことがなく

夜、月もあなたを撃つことがない。

7 主がすべての災いを遠ざけて

あなたを見守り

あなたの魂を見守ってくださるように。

8 あなたの出で立つのも帰るのも

主が見守ってくださるように。

今も、そしてとこしえに。

ヨハネによる福音書 15章5節

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

御言葉を受けての祈り

■中部教区総会議長 加藤幹夫

わたしたちの慰め主であり、教会の頭である主イエス・キリストの父なる神よ。1年前の今、能登半島地震が発生し、輪島をはじめ、能登半島を中心に大きな被害を体験しました。中部教区内における輪島、七尾、羽咋、魚津の4つの教会と富来伝道所、羽咋白百合幼稚園、七尾幼稚園が被害を受けました。

特に輪島の町の被害は大きく、教会のすぐ近くにある朝市が全焼し、黒焦げた廃墟のような姿が今も目に浮かんでいます。輪島教会の多くの教会員は、まだ輪島の町に戻れず、入院されている方もおられます。再建計画も、まだ見通せない状況の中にあります。仮設礼拝所は建てられましたが、新藤牧師はまだ修復されていない牧師館で生活をされています。あなたの強い御手による導きと慰めを願います。どうぞ、信仰と希望と愛とをお与え下さい。

七尾教会は地域に根ざした教会として、多くの幼稚園の働きをされていますが、修復の見積に時がかかっています。また、多くの業務に追われている釜土牧師夫妻の健康を覚えます。主のお支えをおいてください。

羽咋教会、富来伝道所は被災地の中で、輪島教会の支援や教団のボランティアを受け入れ、多くの奉仕をしてくださっています。主のお支えを祈ります。

魚津教会からも震災の被害が報告されました。地震により会堂の至る所に亀裂が入り、雨漏りがひどい状況が続いています。冬に入り積雪もあるため修復を急いでいます。主のお守りを祈ります。

詩編の詩人はエルサレムの都へ向かう途中、ユダの荒れ野の山々を仰いだこととあります。その姿を思い浮かべます。人の力を寄せ付けない無の世界の中で、「いったい、わたしの助けはどこから来るのか！」と嘆きの声をあげました。先の見えない旅路の中で、何の望みも感じることができない中で、わたしたちも叫びます。しかし、主よ、あなたはこの声を必ず聞いてくださると信じます。それゆえに、「わたしの助けは来る 天地を造られた主のもとから」との信仰告白を与えてください。そして、まことのぶどうの木であるイエスさまが「わたしにつながっていなさい。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」と呼びかけてくださる声に耳を傾け、その御言葉を信頼し、イエスさまにゆだねる信仰を与えてください。

多くの方々から祈られていることに感謝します。多くの方々から支援されていることに感謝します。共に主をほめたたえる信仰告白共同体として、日本基督教団の教会として、祈りを合わせる幸いを感謝します。それぞれの被災地にある教会が、その関連施設が主の力によって支えられ、あなたの福音が力強く宣べ伝えられますようにと祈ります。そこに遣わされている牧師とその家族を支えてください。長老、役員のお働きを支えてください。教会員おひとり、おひとりの歩みを支えてください。そして、被災地にあって魂が打ちひしがれているおひとり、おひとりに主の慰めをお与えください。

憐れみと慈しみと慰めの主、イエス・キリストの御名によって祈ります。
アーメン

被災4教会から祈りのためのメッセージ

■輪島教会 新藤 豪^{つよし} (牧師)

輪島教会は1913年の創立です。ですから2024年は創立111周年となりましたが1月1日の能登半島地震によって礼拝堂は全壊、牧師館は中規模半壊となりました。5月に設置された仮礼拝堂のユニットハウスに会堂にあった長椅子と講壇を運び入れ、5月19日のペンテコステからここで礼拝をささげています。多くの方々のお祈り、またお支え、まことに感謝です。

石川県によります解体の進捗は、全体で32000棟が解体見込みであり、そのうち輪島市では9700棟の申請があり、そのうち10月末の時点で完了したのは1300棟だそうです。ニュースによくでた五島屋ビルの解体も進み、牧師館に寄りかかっていた隣家の解体も11月中旬に終わりましたが、会堂の解体予定は未定です。それとまた12月になっても仮設住宅の割り当てがなく、輪島に戻って来られない教会員もいます。

アブラハムは、行く先を知らずに出て行きました（ヘブライ11:8）。人間的な知恵、思いよりも、今はわからなくても、主の力と助けは、まちがいなくあります。主の御心を本気で信じ信頼する、そういう歩みでありたいと思います。

■七尾教会 釜土達雄 (牧師 関連施設理事長)

2007年の能登半島地震の後、全国の皆様の祈りによって、七尾教会礼拝堂は改築させていただきました。その結果、今回の地震にも耐えることができ、幼稚園と共に、一時避難所として用いられました。感謝です。けれども教会建物にはクラックがあり、駐車場に修理が必要とされています。建物自体の工事は50万円ほどですが、駐車場の見積もりはまだ出てきていません。業者が手一杯なのです。七尾幼稚園と七尾放課後児童クラブの建物は、本格的修理が必要です。合わせて6,000万円ほどの見積もりがでています。羽咋（はくい）市の羽咋白百合幼稚園とゆりっこ児童クラブも被害を受けていて、羽咋白百合幼稚園は6ヶ月にわたり仮園舎での保育でした。0歳児1歳児のお部屋は解体、建て直しで、未着工です。合計で8,000万円ほどの工事となります。それぞれ公的補助を受けての工事ですが、小さな法人にとっては大きな負担です。お祈りください。

■羽咋教会 内城 恵 (牧師)

羽咋教会と富来伝道所、牧師館は2007年の春に起きた能登半島地震の後に建てられた堅牢な建物であったため、倒壊することなく今日まで礼拝を続けることができました。しかし、教会員の中には家が被災した方がおられ、金沢に避難して志賀町に戻れなくなってしまう方がおられます。そのような中、富来伝道所においては、破損した給湯設備が中部教区のご支援により復旧出来たことで、3月から北陸学院大学の学生ボラ

ンティアのために、また8月からは日本基督教団の被災地、被災教会ボランティアの宿泊所として用いられています。震災からの復興によって建てられた会堂が用いられていくことは、長い祈りの結実であり、感謝いたします。

震災から11ヶ月を経過して、余震の影響でトイレの雨漏りが始まりましたが、大事にはいたっておりません。教会が支援のために用いられ、希望を指し示す働きをなすことができることに感謝いたします。

■魚津教会 ウェーラーE.R (牧師)

富山の正月は晴れでした。教会員と昼食を食べ、家へ戻る途中、地震は起こりました。教会に着くと、町の人々は山に逃げていました（津波の警告があったから）。私は、教会員の安否と会堂の被害を確認しました。心臓病を患っている近所の方などは教会に助けを求めに来ましたので、受け入れました。しばらくして、テレビを付けたところ、能登半島地震を知り、祈り続けました。「輪島を見ながら教会、町はどうなるの？」と思いました。梅雨になって、震災のためにひび割れした箇所からの雨漏りがひどくなりました。そこで、地区、教区に相談したところ、「工事見積を取ってください」と勧められ、その通りにしました。会堂修理見積は380万円です。外壁のクラックが大変です。一所懸命祈り、献金を捧げますが、教会の力だけでは足りないのです。教会の別棟にある集会所「アガペハウス」も被害があり、耐震補強されていない1/4の部分が崩壊に近い状況にあり、どのようにするかを決めてゆく予定です。全国の兄弟の祈りを魚津教会員と共に心から感謝します。

讚美歌 301 (1954 年度版)

- | | | |
|---|--------------------------------|------------------------------|
| 1 | 山べに むかいてわれ 目をあぐ
あめつちのみかみより | 助けはいずかたより きたるか
たすけぞわれにきたる |
| 2 | み神は 汝の足を つよくす
みたみをば守るもの | み守りあれば汝は うごかじ
まどろみねむりまさで |
| 3 | み神は あだをふせぐ たてなり
よるは月、ひるは日も | なが身をつねに守る かげなり
汝をばそこなうまじ |
| 4 | み神は わざわいをも さけしめ
いずるおり、いるおりも | 疲れしたましいをも やすます
たえせず汝を守らん |
- アーメン

祈り

中部教区総会副議長	小林 光
中部教区総会書記	尹 成奎
中部教区常置委員	村瀬 明子
中部教区現地委員会委員長	松島 保真

主の祈り

天にまします我らの父よ
ねがわくは み名をあがめさせたまえ
み国を来たらせたまえ
みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も与えたまえ
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく 我らの罪をもゆるしたまえ
我らをこころみにあわせず 悪より救い出したまえ
国とちからと栄えとは限りなく なんじのものなればなり
アーメン

中部教区 この1年の主な歩み

1月1日 16時10分 能登半島地震発生 輪島と志賀町で最大震度7

日本海沿岸の広範囲で津波が観測。各地で土砂災害、火災、液状化現象、家屋の倒壊が相次ぎ、交通網も寸断。奥能登地域を中心に北陸地方の各地で甚大な被害。輪島においては大火災が発生。

マニュアル初期対応(3日間)に従い、情報収集 教区ホームページに随時、公開

輪島教会 会堂・牧師館に被害

七尾教会 関連幼稚園に被害

羽咋教会・富来伝道所 会堂に被害

1月4日 臨時常置委員会 Zoom による Web 会議を開催

①現地訪問と見舞金について

②能登半島地震支援現地委員会(特別委員会)設置について

目的 被災地及び被災教会の状況確認と支援要求を教区に連絡し、教区三役と共に対応を協議

③能登半島地震特別会計の設置と教区募金「被災された教区内諸教会・伝道所等における 教会活動と再建支援のための募金」を開始

④地域の救援に関する件

教団が計画する救援活動に参加。教区は主に「教区内の被災教会・伝道所とその関係施設の支援」に取り組む

1月7日 輪島教会 避難所にて4名で礼拝

1月17日 教区議長、羽咋教会、七尾教会を訪問

1月18日 教区議長、現地委員が現地から依頼された支援物資を持って、輪島教会を訪問
羽咋～輪島へのルートは所々寸断、通常の3倍以上の時間を要する

1月22日 地震発生3週間経過(中期対応終了)依然として地域への支援は困難状況が続く

1月23日 現地委員による輪島教会の片付け

2月23日 現地委員による輪島教会の片付け

2月26,27日 教区常置委員会 決議事項

①輪島教会、七尾教会、羽咋教会に2023年度負担金援助

②輪島教会に2023年度謝儀援助追加支援

③富来伝道所 給湯器修理 教区支援拠点のために光熱水費援助

3月11～13日 教団副議長、書記、総幹事、社会委員長が輪島、七尾、羽咋、北陸学院を訪問

4月1,2日 教区議長、教区書記 羽咋教会・富来伝道所、輪島教会訪問
輪島教会の事務会計処理等を確認

4月2～4日 雲然教団議長が輪島、七尾、羽咋とその関連施設訪問

4月7日 輪島教会 避難所から信徒宅で礼拝再開

4月16日 教区臨時常置委員会 決議事項

①教区総会に「能登半島地震被災教会支援に関する件」を決議

②輪島教会支援・再建へのプロセス

信徒宅での礼拝→仮設礼拝堂設置→会堂再建・牧師館改修

4月29日 教区三役が七尾教会、羽咋教会、輪島教会、北陸学院を訪問

5月13日 輪島教会 仮設礼拝所設置 19日ペンテコステから礼拝開始

5月21,22日 教区総会「能登半島地震被災教会支援に関する件」が可決

①中部教区能登半島地震募金を継続

②能登半島地震被災教会支援のため、現地委員会の活動を継続して支援

③被災3教会に関して、2024年度教区負担金・助合伝道献金について全額相当の援助、特別謝儀援助・特別伝道費援助を申請に基づいて実施

④輪島教会の一時的な礼拝場所を確保

⑤輪島教会の会堂再建と牧師館の改修と援助に向けて計画を進める

⑥七尾教会の改修と援助に向けて計画を進める

⑦羽咋教会・富来伝道所の改修と援助に向けて計画を進める

⑧教会関係施設(七尾幼稚園と羽咋白百合幼稚園)の改修と援助に向けて計画を進める

⑨上記4～8を進めるために、教団と協力し、教団に再建委員会設立を依頼する

「教団能登半島地震救援対策委員会」第2回(1/15)～第9回(10/3)との連携 教区議長陪席

以後、「能登災害ボランティア窓口」となり、第1回(11/11)が開催

6月3日 6時31分頃、輪島を中心に最大震度5強の揺れが発生

6月13日 輪島教会、半年ぶりにZoomによるWeb会議で役員会開催

6月18日 輪島教会、仮設礼拝所にエアコン、手洗い場設置

7月2日 「教団能登半島地震被災教会会堂等再建支援委員会」が設置

第1回(7/30)、第2回(10/3) 教区議長陪席

7月8～11日 教団、西東京教区よりボランティア。輪島教会の片付けを実施

「教団派遣ボランティア」の実施

第1次 8月5～8日 第2次 8月26～29日 第3次 10月8～11日

第4次 10月22～25日 第5次 11月4～8日 第6次 11月19～22日

9月22日 石川県に大雨特別警報発令 輪島を含む奥能登に豪雨被害

10月11～12日 輪島への豪雨被害に対する北陸学院ボランティアの協力として、中部教区でボランティアを呼びかけて実施

11月12日 輪島教会牧師館の隣家、公費解体

11月22日 魚津教会に教区三役、現地委員会委員長が訪問

会堂の被害、教会付属施設アガペハウスの被害を確認。

11月26日 輪島を中心に最大震度5弱の揺れが発生

中部教区 能登半島地震特別会計

(献金は全国から中部教区に振り込まれた募金)

2024年1月1日～3月31日の会計報告

収 入 の 部		支 出 の 部	
献 金 (3 9 4 口)	42,033,610		
		被災地問安・訪問費用	158,170
		支援物資・雑費	51,377
		支援物資(パソコン)	98,720
		事務通信費	44,766
		負担金援助(3教会)	82,900
		次年度繰越金	41,597,677
合 計	42,033,610	合 計	42,033,610

2024年4月1日～11月30日の会計報告

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	41,597,677		
献金(献金291口)	30,727,093		
日本基督教団(ユニットハウス代)	2,880,000		
日本基督教団(ボランティア交通費)	44,100	被災地問安・訪問費用	331,320
		現地委員会経費	18,278
		支援物資・雑費	18,620
		事務通信費	39,766
		ユニットハウス代(輪島教会)	2,880,000
		仮設設置工事(輪島教会)	524,198
		エアコン設置(輪島教会)	176,000
		給湯器交換工事(富来伝道所)	342,100
		ボランティア交通費	44,100
		追加謝儀援助1～3月分	240,000
		特別謝儀援助(2教会)	990,000
		特別伝道費援助(2教会)	360,000
		負担金援助(3教会)	389,800
		助合伝道献金援助(3教会)	160,000
		繰越金	68,734,688
合 計	75,248,870	合 計	75,248,870

